

平成29年9月

棕田奈保子 学位論文審査要旨

主 査 原 田 省
副主査 梅 北 善 久
同 小 川 敏 英

主論文

Apparent diffusion coefficient (ADC) measurement in ovarian tumor: Effect of region-of-interest methods on ADC values and diagnostic ability

(卵巣腫瘍における見かけの拡散係数 (ADC) 計測: ADC値と診断能における関心領域法の影響)

(著者: 棕田奈保子、藤井進也、井上千恵、福永健、田邊芳雄、板持広明、小川敏英)

平成28年 Journal of Magnetic Resonance Imaging 43巻 720頁～725頁

参考論文

1. Evaluation of fetal thyroid with 3D gradient echo T₁-weighted MR imaging

(3DグラジエントエコーT₁強調MR画像を用いた胎児甲状腺の評価)

(著者: 藤井進也、長石純一、棕田奈保子、金田祥、井上千恵、福永健、小川敏英)

平成29年 Magnetic Resonance in Medical Sciences 16巻 203頁～208頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、卵巣腫瘍を対象にADC値測定に関して、ROI形状の影響とROI形状の違いが良悪性の鑑別能に与える影響について検討したものである。その結果、最小ADC値、平均ADC値ともに異なる形状のROI間で有意差を認めた。一方、いずれのROI形状においてもADC値に良性と悪性腫瘍間で有意差を認めたが、良悪性鑑別のためのADC値のcutoff値にはばらつきを認めた。よって、設定するROI形状はADC値並びに卵巣腫瘍の良悪性鑑別におけるcutoff値に影響を与えることが判明した。本論文の内容は、卵巣腫瘍のMRI診断において、ADC値測定の際のROI形状設定の重要性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。